

平成22年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について

【全般】

問題作成にあたっては、中学校学習指導要領に沿い、中学校の日頃の学習で積み上げられた基礎学力をはかるものであるとともに、単なる知識だけではなく、思考力、判断力、表現力等を問うものとなるよう、配慮した。

学力検査の平均点と得点分布状況は別紙のとおりである。5教科の平均点は277.8点で昨年度に比べて22点低下した。教科別にみると、国語が1.7点、社会が7.9点、数学が1.6点、理科が5.8点、英語が5.0点と5教科すべて昨年度の平均点を下回った。

【国語】

話を聞き取って内容を理解する力について、また、限定された範囲での読解については、中学校での学習の成果がみられた。また、作文についても、概ね条件を満たした答案が多かった。しかし、文章や場面の全体を読みこなす力、出題の意図や条件を踏まえて的確にまとめる力及び語彙力には個人差がみられ、漢字等の正確な表記にも課題が残った。今後は、言語事項の基本を丁寧に押さえた上で、長めの文章を読みこんだり、条件に応じて適切に表現したりする学習が望まれる。

【社会】

平均点は55.7点であり、基本的な知識は概ね身につけていると考えられる。また、地理・歴史・公民各分野の定着のバランスも良好であった。一方、統計資料や地図を読み取り思考する力や、文章の構成力、表現力については課題が残った。また、社会事象や用語についての理解が表面的なものにとどまり、正しく理解されていない面もみられた。今後はこれらの力を伸ばしていくことが望まれる。

【数学】

数と式の計算や方程式を解くことなどの基礎的な技能、数量関係についての基礎的な知識、図形に関する基礎的な技能及び知識は概ね定着しており、これらの基礎的・基本的な内容の定着については、中学校における学習の成果がうかがえる。しかし、問題を読みとる力や数学的に考え表現したり判断したりする力については差がみられた。今後は、これらの力を一層伸ばすとともに、継続して基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ることが望まれる。

【理科】

第二分野の基礎的・基本的な事項については正しく理解されており、知識を問う問題についての正答率は高かった。反面、実験結果をもとに考察する問題や、論理的・科学的な思考力を要する問題については、正答率が低かった。その傾向は、第一分野により顕著に表れていた。引き続き、グラフを作成する能力や読み取る能力、また、考察した内容を論理的に説明する表現力、さらに計算力、読解力の育成が望まれる。

【英語】

「聞くこと」に関する問題については、自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞き取るものであった。全体的に正答率は高く、中学校での「聞くこと」についての学習の成果がうかがえる。「読むこと」については、文構造、語彙に注意しながら重要な部分について細部を正確に読み取る問題で正答率が低い。「書くこと」についての問題では、場面や表現によって正答率に大きな差があった。今後、分量のある英文で重要な部分を細部まで読み取る力や場面に応じた英語運用力の育成が望まれる。